

後期研修 カリキュラム

多様な領域で標準的（スタンダード）理学療法を臨床実践でき、学生や後輩を指導できるレベル										
到達目標	講義テーマ	コマ（時間）数	修了要件	研修形式	到達目標	学習目標				
A 臨床推論	A-1 理学療法診断学①	1コマ (1.5時間)	4コマ (6時間)	e-ラーニング または 対面	I-⑤ 1.対象者の疾患・障害を理解し、医学モデル及び社会モデルの統合モデルとして、障害の把握・問題点を整理し、指導ができる。 II-⑤ 1.疾患・病態を理解し、介入前の全身状態を把握してリスク管理ができ、指導ができる。	・いかなる疾患・障害を呈する対象者に対するフィジカルアセスメント（問診・視診・聴診・触診）、バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸数など）、意識レベルの評価とその意味を説明・指導できる。また、そこから身体機能の状態が臨床推論できる。 ・各種モニターの意味と使用方法を説明・指導できる。また、そこから身体機能の状態が臨床推論できる。 ・症候群（意識低下、けいれん、失神、めまい、呼吸困難、胸痛、動悸、急性肺障害・急性呼吸促進症候群、嘔気・嘔吐、腹痛、頭痛、咽頭痛、腰背部痛、全身性炎症反応症候群など）について学習し、そこから身体機能の状態が臨床推論できる。 ・上記のような医療安全管理の重要性と導かれる身体機能の状態の臨床推論が習熟し、適用・誤用および廃用を誘発しない理学療法管理について説明・指導できる。				
	A-2 理学療法診断学②	1コマ (1.5時間)				・血液・生化学検査の意味を正しく理解し、身体機能の状態を臨床推論できる。さらに、運動・活動を含む理学療法を実施するうえで考慮すべき検査所見を説明・指導できる。 ・虚血、充血、うっ血、出血の違いとそれぞれの病因・病態、血栓症・塞栓症の病因・病態、低酸素血症および高炭酸ガス血症の病因・病態について正しく理解し、身体機能の状態を臨床推論できる。さらに、運動・活動を含む理学療法を実施するうえで考慮すべき検査所見とフィジカルアセスメントを説明・指導できる。 ・各種生理検査の意味を正しく理解し、身体機能の状態を臨床推論できる。さらに、運動・活動を含む理学療法を実施するうえで考慮すべき検査所見を説明・指導できる。 ・上記のような医療安全管理の重要性と導かれる身体機能の状態の臨床推論が習熟し、適用・誤用および廃用を誘発しない理学療法管理について説明・指導できる。				
	A-3 画像診断学（画像関連）	2コマ (3時間)				・レントゲン画像、CT、MRI 画像、超音波（エコー）画像、造影検査、心電図波形、筋電図波形を正しく理解し、理学療法実施上の留意点、特に運動・活動に際する影響について説明できる。また、そこから身体機能の状態が臨床推論できる。 ・脳画像（CT像、MRI像）については、脳の機能解剖、局在性について、必要な解剖学的知識を正しく理解し、そこから身体機能の状態や機能予後が臨床推論できる。 ・運動器系疾患についての四肢・体幹のX線像、CT像、MRI像等から、必要な機能解剖ならびに構造的特徴に関する知識を正しく理解し、身体機能の状態や機能予後が臨床推論できる。 ・胸部X線所見やCT所見、心エコー所見等の読影から、必要な機能解剖ならびに構造的特徴に関する知識を正しく理解し、身体機能の状態や機能予後が臨床推論できる。 ・上記のような各種病態に対する明確な画像所見を学習し、適用・誤用および廃用を誘発しない理学療法管理について理解する。				
B 臨床疫学（演習）	B-1 臨床疫学Ⅰ・Ⅱ	2コマ (3時間)	4コマ (6時間)	e-ラーニング または 対面	I-② ・自己のめざす方向性・理学療法観の確立に向けて、継続的に職場外の教育活動や学会に参加できる。 ・学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に、理学療法実践に活用できる。 ・理学療法法の発展・開発・工夫に向けて取り組むことができる。 II-⑤ ・理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。 III-① ・率先して研究活動に参加することができる。	・臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice からresearch question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。医学におけるこれら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論、基礎知識および実践的方法論（EVID と治療ガイドライン、臨床推論、臨床予測、コホート研究／症例対照研究／自己対照研究デザイン、ランダム化比較試験(RCT)、ヘルスサーベイランスなど）を理解し、理学療法への活用を学習する。 ・疫学研究ならびに公衆衛生活動を実際に行うための必須の知識と技術、考え方を学習し、地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解する。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について理学療法への応用を学習する。 ・主に予防保健と疫学の関連、疫学的思考、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務（特定保健指導等）における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の活用方法を学習する。 ・主に疫学の歴史と社会的役割、記述疫学および生物学的研究の目的と方法、疫学における「集団」と「測定方法」の考え方、横断研究・症例対照研究・コホート研究・介入研究・レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法、疫学研究の保健活動への活用、研究デザインの種類と特徴、観察研究のデザインと臨床試験のデザイン、臨床試験のデザインとプロトコル作成、CONSORT による論文チェックと疫学研究のデザインとプロトコル作成；STROBE による論文チェック、データマネージメントと品質管理、医薬品の承認審査、先進医療の評価の概要、傾向スコアを用いた研究デザイン；傾向スコアの正しい使い方と実践を深く学習する。 ・EBPTや診療ガイドラインの表す価値や位置づけについて正しく理解する。 ・PEDro等のデータベースを用いてランダム化比較試験、システマティックレビューや診療ガイドライン研究、Narrative Databaseなどの質に関する評価について学び、臨床に関わる最も妥当で十分な情報を検索する。				
	B-2 文献検索演習	2コマ (3時間)				I-② ・理学療法法の発展・開発・工夫に向けて取り組むことができる。 II-⑤ ・理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。 III-① ・学生や後輩の教育方向性に向けた働きかけをすることができる。 ・率先して研究活動に従事することができる。 III-② ・学生や後輩のモチベーション向上等を図り円滑な運営にむけた雰囲気作りができる。 ・力量確保に向けたスタッフ指導・監督・育成を進める。 ・学生や後輩への模範となり信頼を得ることができる。	・EBPTデータベースのあり方を理解する。 ・理学療法を適切に実施するために必要となる評価の内容について、必要な領域の文献検索が出来る。 ・理学療法を代表とする治療の内容について、必要な領域の文献検索ができる。 ・文献検索に得た結果を利用して、科学的根拠を持った臨床での活用方法を考える。			
C 領域別研修（座学）	C-1 神経系理学療法① 脳血管障害の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)	19コマ (28.5時間)	e-ラーニング または 対面	I-⑤ 1.対象者の疾患・障害を理解し、医学モデル及び社会モデルの統合モデルとして、障害の把握・問題点を整理し、指導ができる。 2.エビデンス、生活機能（背景因子を含む）、対象者の好みと行動、理学療法士の臨床経験に合わせて、目標と計画を立案でき、指導ができる。 3.対象者における目標と治療計画を理解し、理学療法法の効果を評価し、実践と指導ができる。	・前期研修で学習した共通な疾患・障害以外のモデルについて学習する。 ・前期研修は主に維持期・介護期・終末期モデルを十分に学習し、理学療法におけるリハビリテーションおよび介護予防の基礎を理解する。（領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。）				
	C-1 神経系理学療法② 神経変性疾患の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)					e-ラーニング または 対面	II-⑥ 1.計画に基づいて、臨機応変に理学療法法の介入ができる。 2.理学療法介入について、他者の支援ができ、記録についても助言ができる。 3.医師や看護士などと多職種間で協働し、シームレスで相互作用のあるチーム医療を実践できる。 4.地域包括ケアシステムを理解し、他施設・他機関と必要な情報を共有しながら、必要とされる理学療法法が実践できる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。	
	C-1 神経系理学療法③ 脳性麻痺・発達障害の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)								e-ラーニング または 対面
	C-1 神経系理学療法④ 社会オリジナル神経系理学療法	—		対面のみ	II-⑧ 1.疾患・病態を理解し、介入前の全身状態を把握してリスク管理ができ、指導ができる。 2.緊急時の対応を予測して行動ができる。					
	C-2 運動器系理学療法① 外傷性・変形性疾患の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)					e-ラーニング または 対面	II-⑨ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。	
	C-2 運動器系理学療法② スポーツ障害の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)								e-ラーニング または 対面
	C-2 運動器系理学療法③ 骨髄系疾患の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)		e-ラーニング または 対面	II-⑪ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。					
	C-2 運動器系理学療法④ 社会オリジナル運動器系理学療法	—					対面のみ	II-⑫ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。	
	C-3 内部障害系理学療法① 呼吸器疾患の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)								e-ラーニング または 対面
	C-3 内部障害系理学療法② 循環器疾患の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)		e-ラーニング または 対面	II-⑭ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。					
	C-3 内部障害系理学療法③ 代謝系疾患の理学療法Ⅰ、Ⅱ	2コマ (3時間)					e-ラーニング または 対面	II-⑮ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。	
	C-3 内部障害系理学療法④ 社会オリジナル内部障害系理学療法	—								対面のみ
	C-4 病期別理学療法① 老年期障害の理学療法	2コマ (3時間)		e-ラーニング または 対面	II-⑰ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。					
	C-4 病期別理学療法② 生活期の理学療法	1コマ (1.5時間)					e-ラーニング または 対面	II-⑱ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。	
	C-4 病期別理学療法③ 終末期の理学療法	1コマ (1.5時間)								e-ラーニング または 対面
C-5 病期別理学療法④ 社会オリジナル病期別理学療法	—	対面のみ	II-⑳ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。						
C-5 周辺領域と理学療法① 公的保険外活動と理学療法	1コマ (1.5時間)				e-ラーニング または 対面	II-㉑ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。			
C-5 周辺領域と理学療法② 国際協力と理学療法	1コマ (1.5時間)							e-ラーニング または 対面	II-㉒ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。
C-5 周辺領域と理学療法③ 保健福祉行政と理学療法	1コマ (1.5時間)	e-ラーニング または 対面	II-㉓ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。						
C-5 周辺領域と理学療法④ 精神心理と理学療法	1コマ (1.5時間)				e-ラーニング または 対面	II-㉔ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。			
C-5 周辺領域と理学療法⑤ 学校保健等教育領域と理学療法	1コマ (1.5時間)							e-ラーニング または 対面	II-㉕ 理学療法介入の効果判定の規範を示し、学生や後輩が適切に効果判定と見直しができるよう援助することができる。	・領域別の代表的な疾患・障害に対して、評価や治療に必要な知識と技術のポイントや、物理療法や義肢装具などの必要性なども学習し、それらの領域すべてを終了することでジェネラリストとしての質を担保するものである。

D 関連領域	D-1 栄養学	1コマ (1.5時間)	5コマ (7.5時間)	e-ラーニング または 対面	<ul style="list-style-type: none"> 糖代謝異常の病因・病態、タンパク質・アミノ酸代謝異常の病因・病態、脂質代謝異常の病因・病態、無機質代謝異常の病因・病態を説明・指導できる 栄養の定義および栄養の評価方法を理解し、栄養状態を確認できる基本的な検査測定および形態測定を説明・指導できるようになる。そのうえで、患者の置かれている栄養状態の現状を把握し、とりわけ低栄養ならびに栄養強化療法に基づいた運動療法について実際の活用を理解し、説明・指導できる リハビリテーション栄養の概念を理解し、理学療法への活用を説明・指導できる 代表的な廃用症候群（褥瘡、関節拘縮、筋萎縮など）の病態と栄養状態の関係や影響について説明でき、臨床において留意できるようになる サルコペニア、老年症候群（分類を含む）、フレイルの定義を理解し、それぞれに対する理学療法の対応ができるようになる
	D-2 創傷治療学	1コマ (1.5時間)			<ul style="list-style-type: none"> 1-② 2. 学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に、理学療法実践に活用できる
	D-3 薬理学	1コマ (1.5時間)			<ul style="list-style-type: none"> II-① 対象者・家族に対し、実践しようとしている理学療法について、治療の目的、治療公開などを同意（理解）が得られるよう説明する責任があることを理解し、説明と指導ができる
	D-4 福祉環境総論	2コマ (3時間)			<ul style="list-style-type: none"> I-② 2. 学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に、理学療法実践に活用できる II-① 対象者・家族に対し、実践しようとしている理学療法について、治療の目的、治療公開などを同意（理解）が得られるよう説明する責任があることを理解し、説明と指導ができる III-⑦ 医療保険・介護保険を理解し、社会的資源の活用について理解と実践ができ、指導できる
E 領域別研修 (事例)	E-1 神経系理学療法学	2コマ (3時間)	6コマ (9時間)	対面	<ul style="list-style-type: none"> I-② 1. 自己のめざす方向性・理学療法観の確立に向けて、継続的に職場内外の教育活動や学会に参加できる 2. 学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に、理学療法実践に活用できる 3. 理学療法の実践・開発・工夫に向けて取り組むことができる
	E-2 運動器系理学療法学	2コマ (3時間)			<ul style="list-style-type: none"> III-① 1. 学生や後輩の教育力向上に向けた働きかけをすることができる 3. 率先して研究活動に参加することができる
	E-3 内部障害系理学療法学	2コマ (3時間)			<ul style="list-style-type: none"> III-② 6. 学生や後輩への模範となり信頼を得ることができる
E 領域別研修 (育成)	E-4 臨床実習指導	2コマ (3時間)	5コマ (7.5時間)	e-ラーニング または 対面	<ul style="list-style-type: none"> III-① ・学生や後輩の教育力向上に向けた働きかけをすることができる ・臨床実習指導者として、学生や後輩への指導・助言・評価ができる ・率先して研究活動に参加することができる
	E-5 臨床教育方法論	2コマ (3時間)			<ul style="list-style-type: none"> I-② ・自己のめざす方向性・理学療法観の確立に向けて、継続的に職場内外の教育活動や学会に参加できる ・学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に、理学療法実践に活用できる ・理学療法の実践・開発・工夫に向けて取り組むことができる III-① ・学生や後輩の教育力向上に向けた働きかけをすることができる ・臨床実習指導者として、学生や後輩への指導・助言・評価ができる ・率先して研究活動に参加することができる III-② ・職場における自身の立場及びそれに必要なルールを理解し、診療プロセスの自立と学生や後輩への指導・監督ができる ・診療プロセスからの逸脱、不適合が発生した場合は速やかに報告・連絡・相談を行うなど対応できる ・必要に応じて是正措置等の対応ができる ・学生や後輩のモチベーション向上等を図り円滑な運営にむけた雰囲気作りができる ・力量確保に向けたスタッフ指導・監督・育成を進める ・学生や後輩への模範となり信頼を得ることができる
	E-6 ティーチングとコーチング	1コマ (1.5時間)			<ul style="list-style-type: none"> I-① ・対象者の権利擁護者としてのコミュニケーションスキルを発揮できる ・倫理的問題に適切に対応し、患者・家族との信頼関係を築くことができる ・退院支援を通して、地域関係者と積極的に関ることができる III-① ・学生や後輩の教育力向上に向けた働きかけをすることができる ・臨床実習指導者として、学生や後輩への指導・助言・評価ができる III-② ・職場における自身の立場及びそれに必要なルールを理解し、診療プロセスの自立と学生や後輩への指導・監督ができる ・診療プロセスからの逸脱、不適合が発生した場合は速やかに報告・連絡・相談を行うなど対応できる ・必要に応じて是正措置等の対応ができる ・学生や後輩のモチベーション向上等を図り円滑な運営にむけた雰囲気作りができる ・力量確保に向けたスタッフ指導・監督・育成を進める ・学生や後輩への模範となり信頼を得ることができる
F 最近の 知見	F-1 神経系領域の最近の知見	1コマ (1.5時間)	8コマ (12時間)	e-ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> I-② 1. 自己のめざす方向性・理学療法観の確立に向けて、継続的に職場内外の教育活動や学会に参加できる 2. 学習成果を後輩・同僚に伝達すると共に、理学療法実践に活用できる 3. 理学療法の実践・開発・工夫に向けて取り組むことができる
	F-2 運動器系領域の最近の知見	1コマ (1.5時間)			
	F-3 内部障害系の最近の知見	1コマ (1.5時間)			
	F-4 基礎・公衆衛生領域の最近の知見	1コマ (1.5時間)			
	F-5 その他の関連領域に関する最近の知見 (ロボット・ICT・AIなどのスマートリハビリテーションにおける理学療法士の役割)	1コマ (1.5時間)			
	F-6 トピックス① (公認心理師の役割)	1コマ (1.5時間)			
	F-6 トピックス② (管理栄養士・栄養士の役割)				
	F-6 トピックス③ (社会福祉士の役割)				
F-7 協会の方針	1コマ (1.5時間)				
F-8 世界の動向	1コマ (1.5時間)				
計			51コマ (76.5時間)		